

1 学校教育目標

- ゆたかな子
- かんがえる子
- つよい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人一人のよさや可能性を見つけ、それが発揮できるようにするための教育活動の展開を重視する学校 ○子ども一人一人のよさや可能性を見つけ、それが発揮できるようにするための教職員の協働体、組織体としての機能の発揮を重視する学校 ○学校が、子どものために教育機能をより発揮できるようにするため家庭や地域などとの理解・協力を重視する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆたかな子 ・進んで挨拶 ・進んで協力 ・進んで表現 進んで読書 ○かんがえる子 ・進んで問題解決 ・進んで伝える ○つよい子 ・進んで運動 ・体を大切に ・目標に向かって最後まで努力 ○地域を愛し誇りをもつことができる子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着のため、個に応じた指導ができる教師 ○広い視野をもち、国際理解教育にとりくむ教師 ○人間愛に溢れ、人権尊重教育に取り組む教師 ○地域・保護者の信頼を得られる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

創立67年目の学校であり、住宅密集地の中に位置しており、梅田の地が発祥したときから居住している家も多い。現在、孫が在学中である、親子三代にわたり本校を卒業したという家庭もおおく、地域や保護者としての学校に寄せる思いはとても熱いものがあり、大変協力的である。三世同居の家庭もある。PTAや開かれた学校づくり協議会の行事等の参加も良く、授業の充実するためには、積極的に授業の補助として活動してくれる

特別支援学級と交流をする中で人権尊重教育をすすめており、異学年交流もさかんである。また、金管バンドクラブやスポーツクラブの課外の取り組みや、研究意欲も高い。落ち着いて、素直で明るい児童が多く、歌声が響く学校であり、運動も努力している。

○ 校内支援委員会を中心に定期的に問題と対応策の明確化に努め、適正かつ充実した個別支援・個別指導を実現することができた。また、生活指導上、人間関係上の諸問題についても早期発見・早期対応・早期解決に努め、挨拶・言葉遣い等、基本的な生活習慣の定着や、良好な人間関係の確立に努めることができた。さらなる児童相互のコミュニケーションの活発化を促し、自己理解・相互理解の深化を図っていくことが課題である。

○ 児童の実態に応じた家庭学習や補充教室の実施や、あだちサマースクール・あだち小学校基礎計算補習教室等の区施策の趣旨を踏まえた個別指導や少人数指導の充実を通して、児童一人一人に基礎的・基本的事項の定着を図ることができた。学校として明確な数値目標をもち、意図的な指導を推進することで、その達成に向けた学校独自の取組を創意工夫し、学習指導の活性化を図っていくことが課題である。

○ 都スポーツ教育推進校・区フロンティアスクールとして、研究の推進を軸に、年間6回の研究授業実践・「ルンランタイム」「らんランタイム」の通年実施・荒川河川敷での持久走大会の実現等の具体的な取組など教育活動全般を通して体育・健康に関する指導の充実を図ることができた。また、成果の発表により、本校の実践が他校での体力向上への取組に生かされれば幸いである。次年度も研究のための研究ではなくこの成果を継承し、組織的・計画的に「梅二体力向上プロジェクト」を推進し、「健康な心と体」の育成に努めていく。基礎的・基本的な事項の定着が十分とは言えない。学年の格差もみられる。そこで、朝のパワーアップタイムでの百ます計算・音読や読書活動など繰り返しの学習の徹底を図ったり、家庭学習や、早寝早起き朝ご飯の定着を図ったりするなど家庭との連携を強固にし、学びの連続性を確保する必要がある。

初任者・3年次・4年次・初異動の教員が多数いるので、OJTの推進、活性化を図ることにより、若手教員の育成と中堅教員の力量アップを果たしていくとともに、学級経営や授業力など、きめ細やかに見守りたい。

基本的な生活習慣や体力作り、読書や学習の習慣作り、道徳的実践力などの定着を図るため、曜日ごとの重点目標を設定し、児童の意欲の喚起と実践力を高める。

知・徳・体のバランスのとれた全人的な教育の推進を図る。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		21	22	23	24	25
1	個の尊重と豊かな人間関係の育成	○	○	○	○	○
2	「確かな学力」の育成と「学び」の質の向上	○	○	○	○	○
3	「健康な心と体」を育てるための体制の充実	○	○	○	○	○

5 平成23年度の重点目標

重点的な取組事項－1		個の尊重と豊かな人間関係の育成
A 今年度の成果目標		達成基準
温かく、思いやりのある正しい言葉遣いと気持ちよい挨拶を身に付けさせ、いじめや不登校、差別をなくす。		いじめ・不登校・差別がない、豊かな人間関係の育成
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
正しい言葉遣い・挨拶の徹底	校内はもとより、地域での挨拶の励行 90%にする。	言葉の目標・子どもの広場など授業以外での取り組みの充実と挨拶・返事の励行の徹底
個に応じた指導の充実	個別支援計画の作成と活用により、配慮を要する児童数を 30%減にする。	校内支援委員会の充実とスクールカウンセラーや関係諸機関との連携の強化 特別支援学級と通常学級との交流の推進
「伝え合う力」の向上	全ての教育活動での言語活動や発表力の向上等のため、委員会発表や集会活動を月 1 回実施する。	幼小保連携活動の充実を図るとともに社会体験活動や自然体験活動等の地域学習の充実と意図的・計画的な実践 道徳授業の充実

重点的な取組事項－2		「確かな学力」の育成と「学び」の質の向上
A 今年度の成果目標		達成基準
様々な学習体験の積み重ねを通して、主体的に粘り強く学ぶ態度の育成を図る。		繰り返し学習、体験的な学習の推進と児童の実態に応じた授業の改善・工夫
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
各教科・領域の指導・評価の充実	学校公開、授業参観時に、保護者・地域・児童の授業診断を年 3 回行い、意見・要望の共通理解を図り、教育活動の改善・工夫に生かす。	校内研究の活性化と日々の授業の充実 内部評価・関係者評価・児童による授業診断などの充実
基礎・基本を確実に定着させる	児童の実態に応じた指導の工夫と妥協しない指導の実践のため、パワーアップタイムの完全実施。	朝・放課後学習・休業中の補習学習など個に応じた指導の徹底 T T・少人数指導・副担任の有効活用 あだち小学生基礎学習教室の活用 土曜授業の内容の工夫と活用
「習得・活用・探究」を視点とした思考力・判断力・実践力の向上を図る	環境・福祉・食育・安全教育など今日的な課題に関する内容の年間指導計画への明確な位置づけ各学年の確実な実践を図る。	各教科・領域で学んだことを総合的に活用し、報告会を実施するなど発表の場の確保 自然教室の活用 外部指導員の活用や地域での体験学習の重視

重点的な取組事項－3		「健康な心と体」を育てるための体制の充実
A 今年度の成果目標		達成基準
基本的な生活習慣の十分な定着を図るとともに、主体性・社会性・規範意識・協調性などの向上に努める。		一人一人のよさや可能性の開花・伸張
B 目標実現に向けた取組み		

項目	達成基準	具体的な方策
校内研究の充実	全ての教員が研究主題にせまる取り組みを実践するために、理論研究2回・実技研修2回・授業研究3回行う。	<p>昨年の体力作りの実績をもとにした実践を継続して行い、健康・食育・体育に関する指導のさらなる充実を図る</p> <p>裸足教育の推進を図る</p> <p>体育科ゲーム領域の研究を通して、人間関係の構築を図る</p>
生活指導上の課題の把握	生活指導上の課題の早期発見・解決・防止のため、(短期的)水曜日に生活指導朝会・(中、長期的)生活指導全体会を年3回実施し、共通理解を図る。	<p>曜日ごとの重点目標の設定</p> <p>生活指導朝会での情報交換と共通理解を図る場の設定</p> <p>アンケート調査、実態調査などによる児童理解と課題把握</p> <p>校内支援委員会とスクールカウンセラーとの連携による相談体制の充実</p>
多様な教育活動の推進	<p>読書量の20%向上を推進する。</p> <p>外遊び90%以上が常に実施する。</p> <p>学校・地域・足立区での様々な活動に80%以上参加する意欲的な児童の育成。</p> <p>キッズぱれっと「梅ニスマイル」時に図書館の開放を実現する。</p>	<p>金管バンド・サッカー・バスケットボールなど他校との交流や発表の場の充実</p> <p>読書週間・読書ボランティアの活用による読書習慣の育成</p> <p>外遊びの励行</p> <p>縦割り班活動の推進</p> <p>地域行事への積極的参加</p> <p>凧揚げ、物作りフェスタ、百人一首等行事への積極的参加</p> <p>あだち放課後キッズぱれっと「梅ニスマイル」の充実</p>